

保健体育科学習指導案

生徒 第2学年A組 男子19名 女子19名 計38名

指導者 教諭 朝倉 潤

I 単元名 保健(3)『傷害の防止』<交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因>

II 単元について

本単元では、傷害の発生要因には様々な要因がありそれらに対する適切な対策によって傷害の多くは防止できるということと、応急手当は傷害の悪化を防止することができるということを理解させる。具体的には、交通事故や自然災害などによる傷害は人的要因、環境要因及びそれらの相互のかかわりによって発生することを理解させる。交通事故などによる傷害の多くは、これらの要因に対する適切な対策を行うことによって防止でき、自然災害による傷害の多くは、災害に備えておくこと、災害発生時及び発生後に周囲の状況に応じて安全に行動することや災害情報を把握することで防止できることを理解させる。さらに適切な応急手当は傷害の悪化を防止することも理解させる。

III 単元の指導目標

- (1) 傷害の防止について関心をもち、学習活動に意欲的に取り組ませる。
【運動や健康・安全への関心・意欲・態度】
- (2) 傷害の防止について、課題の解決を目指して、科学的に考え、判断し、それらを表すことができるようにさせる。
【運動や健康・安全についての思考・判断】
- (3) 交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因やそれらによる傷害の防止、応急手当について、課題の解決に役立つ基礎的な事項及びそれらと生活との関わりを理解させる。
【運動や健康・安全についての知識・理解】

IV 本単元における言語活動

適切な応急手当の仕方についてポスターセッションを行う。 【討論・共同】

V 単元の評価規準

	ア運動や健康・安全への関心・意欲・態度	イ運動や健康・安全についての思考・判断	ウ運動や健康・安全についての知識・理解
学習活動に即した評価規準	<ul style="list-style-type: none">・傷害の防止について、健康に関する資料を見たり、自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。・傷害の防止について、課題の解決に向けての話合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	<ul style="list-style-type: none">・傷害の防止について、健康に関する資料等で調べたことを基に課題や解決の方法を見付けたり、選んだりするなどして、それらを説明している。・傷害の防止について、学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見付けたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。	<ul style="list-style-type: none">・交通事故や自然災害などによる傷害は、人的要因や環境要因などが関わって発生することについて、言ったり、書き出したりしている。・交通事故などによる傷害の多くは、安全な行動、環境の改善によって防止できることについて、言ったり、書き出したりしている。・自然災害による傷害は、災害発生時だけでなく、二次災害によっても生じることについて、書き出している。・自然災害による傷害の多くは、災害に備えておくこと、安全に避難することによって防止できることについて、書き出している。・応急手当を適切に行うことによって、傷害の悪化を防止できることについて、適切な応急手当の方法を述べたり、書き出している。・応急手当には、心肺蘇生等があることについて、言ったり、書き出したりしている。

VI 指導と評価の計画 (8時間扱い・・・本時5/8)

(1) 指導の計画

月	単元	題 材	指導目標	主な学習活動	時数	《言語活動 系統表》 との関連
10 (5)	傷 害 の 防 止	傷 害 の 防 止	①交通事故による傷害は安全な行動、環境の改善によって防止できることを理解させる。	1 中学生の交通事故の特徴を調べる。 2 自転車事故の事例について考える。 3 交通事故による傷害の多くは、安全な行動、環境の改善によって防止できることをワークシートにまとめ、発表する。	1	【討論・共同】
			②傷害の防止について、自分たちの生活を振り返らせる。	1 様々な事例を取り上げて、事故の共通点から要因について話し合う。 2 交通事故を防ぐためには、それぞれの原因に対してどのような対策があるかを教科書等を参考に考え、発表する。	1	【討論・共同】
			③自然災害による傷害は、災害発生時だけではなく、二次災害によっても生じることを理解させる。	1 過去の大地震の資料を見て、どんな傷害が発生したか調べたり、これまでの自分の生活を振り返ったりする。 2 地震などの自然災害に対し、各家庭で備えている「非常持ち出し袋を考える」。 3 防災教育教材「大災害来襲」を視聴し、二次災害によって傷害が生じることをワークシートにまとめる。	1	
			④交通事故や自然災害などによる傷害は人的要因、環境要因によって発生することを理解させる。 ⑤交通事故や自然災害などによる傷害の防止について自分たちの生活を振り返らせる。	1 傷害の防止についての課題に気付く。 2 交通事故や自然災害などによる傷害について、課題の解決に向けて話し合う。 3 グループでの話し合いを基に全体で意見交換をする。 4 傷害の発生は、人的要因、環境要因がかかわって発生することをワークシートにまとめ、発表する。	1	【討論・共同】
			⑥交通事故や自然災害などによる傷害は人的要因、環境要因及びそれら相互のかかわりによって発生するという考えさせる。	1 交通事故や自然災害における傷害の人的要因と環境要因及びそれら相互のかかわりによる要因を話し合い、発表する。 2 傷害の発生原因には、共通することがあることを意見交流する。 3 交通事故や自然災害などによる傷害の防止法や被害を少なくする方法を考え、ワークシートにまとめる。	本時 1	【討論・共同】
11 (3)			⑦応急手当を適切に行うことによって、傷害の悪化を防止できることを理解させる。	1 応急手当の意義や手順について、課題の解決に向けて話し合う。 2 患部の保護や固定止血の行い方を視聴覚教材で確かめる。 3 包帯法と三角布等の実習を行い、話し合ったことをワークシートにまとめる。	1	
			⑧応急手当には心肺蘇生法があり、その意義や行い方を理解させる。	1 倒れている人を発見した場合を想定した応急手当の手順について、課題の解決に向けてグループで話し合う。 2 応急手当の順序や心肺蘇生法の行い方について視聴覚教材で確かめる。	1	

				3 応急手当や心肺蘇生法の意義や行い方をワークシートにまとめる。		
		応急手当	<p>⑨学習したことを事例と比較し、関係を見つかったりするなどして、筋道を立ててそれらを説明させる。</p> <p>⑩傷害の防止について学習したことをしっかり伝えさせる。</p>	<p>1 今までの学習内容を確認する。</p> <p>2 傷害のケースを示したカード（場面カード）を引き、適切な応急 手当の方法と手順を考え、グループで話し合う。</p> <p>3 応急手当の方法や留意点についてポスターセッションを行う。</p>	1	【討論・共同】

(2) 評価の計画

観点	指導目標	評価方法	Aのキーワード・具体例	評価規準B	Cへの手だて
関心・意欲・態度	② ⑤ ⑩	観察	<ul style="list-style-type: none"> 交通事故による傷害の発生原因について、自分たちの生活を振り返り、<u>危険な行為などの具体的な対策法</u>をあげようとしている。 交通事故や自然災害による傷害の防止について自分たちの生活を振り返り<u>具体的な対策法</u>をあげようとしている。 応急手当の方法を<u>留意点とともに正しく伝えよう</u>としている。 	<ul style="list-style-type: none"> 交通事故による傷害の発生について、自分たちの生活を振り返ろうとしている。 交通事故や自然災害による傷害の防止について自分たちの生活を振り返ろうとしている。 応急手当の方法を正しく伝えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な事例や過去の経験を振り返らせたり、個別に説明する。 交通事故と自然災害とを分けて自分の生活を振り返らせる。 傷害の例をあげて学習したことを振り返らせる。
思考・判断	⑥ ⑨	ワークシート 口述	<ul style="list-style-type: none"> 傷害の発生について人的要因や環境要因が関わり発生することを<u>交通事故や地震発生時での具体例</u>をあげている。 傷害の事例にあてはめる時の根拠をあげて説明している。 	<ul style="list-style-type: none"> 傷害の発生について、人的要因や環境要因が関わって発生することを考えている。 適切な応急手当の方法を考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な事例を示したり、人的要因と環境要因とを比較させる。 傷害の事例と応急手当の方法を結びつけて捉えさせる。
知識・理解	① ③ ④ ⑦ ⑧	ワークシート	<ul style="list-style-type: none"> 理解したことについて<u>安全な交通マナーなどの具体例</u>をあげている。 二次災害による傷害の防止の<u>安全な行動の取り方などの具体的な対策法</u>をあげている。 傷害は人的要因と環境要因がかかわって発生することを<u>交通事故や地震発生時などでの事例</u>をあげている。 応急手当を行うことによって傷害の悪化を防止できることについて理解した<u>正しい処置法</u>具体例をあげている。 心肺蘇生法の<u>心臓マッサージなどの具体的な行い方</u>をあげている。 	<ul style="list-style-type: none"> 行動や環境の改善により交通事故による傷害は防げることを書き出している。 傷害は二次災害によっても生じることを理解している。 傷害は人的要因と環境要因が関わって発生することが理解している。 応急手当を行うことによって傷害の悪化を防止できることについて理解している。 応急手当には心肺蘇生法があることを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 傷害の原因と防止が結びつく具体例な事例を提示する。 二次災害の具体的な事例をあげて個別に説明する。 必要に応じて人的要因と環境要因とを振り返らせる。 自分自身の経験から応急手当を振り返らせる。 具体的な傷害の事例を提示し、心肺蘇生の重要性を考えさせる。

Ⅶ 生徒の実態について

保健授業に対する意欲が高く、発問に対する挙手が多いクラスといえる。また、保健で学習する内容を自分のこととして捉えることのできる生徒が多い。グループでの学習活動を多くし、活発な意見交流を行わせることで、生徒に学習を深めさせ、日常生活の質的向上に生かさせる単元としたい。

Ⅷ 本時案

1 題材 「交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因」

2 学習目標

- ・交通事故や自然災害などによる傷害は人的要因、環境要因及びそれら相互のかかわりによって発生するという事を考えることができる。 【運動や健康・安全についての思考・判断】

3 学習の展開

○学習活動	○教師のかかわりと◆留意点	○評価規準と(評価方法)
<p>○交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因とその防止法について確認する。</p> <p>○傷害は人的要因、環境要因及びそれらの相互のかかわりによって発生するという事を確認する。</p>	<p>○交通事故と自然災害では地震を取りげ、それぞれにおける傷害の発生要因と防止法を確認させる。</p> <p>○傷害の原因は、人的要因、環境要因及びそれら相互のかかわりによるものであることを確認させる。</p>	
<p>交通事故や自然災害における傷害の人的要因や環境要因及びそれら相互のかかわりによる要因とは何かを考えよう。</p>		
<p>○交通事故の瞬間の映像を視聴する。</p> <p>○視聴した映像中の交通事故の原因をグループ毎に数多くあげる。</p> <p>○自然災害(地震)発生時の様子を再現した映像を視聴する。</p> <p>○視聴した映像の中で傷害の原因となるものをグループ毎に数多くあげる。</p> <p>○視聴した映像中の「交通事故による傷害の原因や自然災害による傷害の原因となるもの」をグループ毎に人的要因、環境要因、それらの相互にかかわっている要因とに分類し、黒板に提示する。</p> <p>○分類した「交通事故による傷害の原因や自然災害による傷害の原因」に共通することを考える。</p> <p>○ハインリッヒの『ドミノ理論』を知る。</p> <p>○交通事故や自然災害などによる傷害の発生原因や防止法、被害を少なくする方法をまとめる。</p>	<p>◆その交通事故が発生した原因をできるだけ多く見付けられるように視聴させる。</p> <p>◆地震の再現映像に傷害の発生原因となると考えられることをできるだけ多く見付けられるように視聴させる。</p> <p>○交通事故や自然災害による傷害は、人的要因、環境要因及びそれらの相互のかかわりにより発生することを理解させる。</p> <p>◆交通事故と自然災害とは全く別な事象だが、それによる傷害の発生には共通するものがあることについて考えさせる。</p> <p>○『ドミノ理論』で事故や災害の発生メカニズムの中核原因とされる不安全行為(人的要因)と機械的危険(環境要因)を排除すれば、事故や災害による傷害を防止できることを理解させる。</p> <p>○交通事故や自然災害などによる傷害の発生原因や防止法、被害を少なくする方法を考え、ワークシートに書き出させる。</p>	<p>○傷害の発生原因を、自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見付けたりするなどして、説明している。(ワークシート)</p>